

著者・訳者紹介

■ 著 者

Harold A. Feiveson ハロルド・ファイブソン

プリンストン大学公共・国際問題ウッドロー・ウィルソン・スクール上級研究員・講師。博士（1972年、公共問題、米国プリンストン大学）。学術誌「科学とグローバル安全保障」編集長。2006年までプリンストン大学「科学とグローバル安全保障」プログラムの共同創設者で共同ディレクター。

Alexander Glaser アレキサンダー・グレーザー

プリンストン大学公共・国際問題ウッドロー・ウィルソン・スクールと機械航空工学科准教授。博士（2005年、物理学、独ガムシュタット大学）。雑誌The Bulletin of the Atomic Scientistsの科学と安全保障理事会メンバー。学術誌「科学とグローバル安全保障」の共同編集者。2015年からInternational Panel on Fissile Material (IPFM)共同議長。

Zia Mian ジア・ミアン

プリンストン大学科学とグローバル安全保障プログラム研究員、南アジアにおける平和と安全保障プロジェクトのディレクター。博士（1991年、物理学、英国ニューカッスル・アポンタイン大学）。学術誌「科学とグローバル安全保障」の共同編集者。2015年からIPFM共同議長。

Frank N. von Hippel フランク・フォン・ヒッペル

プリンストン大学公共・国際問題ウッドロー・ウィルソン・スクール、「科学とグローバル安全保障」プログラム、名誉教授。博士（1962年、物理学、英国オックスフォード大学）。プリンストン大学「科学とグローバル安全保障」プログラムの共同創設者、2006年から14年までIPFM共同議長。クリントン政権時、ホワイトハウス科学技術政策局安全保障担当特別補佐官を務める。

■ 監訳者

鈴木 達治郎（すずき たつじろう）

長崎大学核兵器廃絶研究センター センター長・教授。
1951年生まれ。75年東京大学工学部原子力工学科卒。78年マサチューセッツ工科大学プログ

ラム修士修了。工学博士（東京大学、1988年）。2010年1月より2014年3月まで内閣府原子力委員会委員長代理を務めた。核兵器と戦争の根絶を目指す科学者集団バグウォッシュ会議評議員として活動が続けている。『アメリカは日本の原子力政策をどうみているか』（共編、岩波書店、2016）。

■ 訳 者

富 塚 明（とみづか あきら）

長崎大学大学院 水産・環境科学総合研究科 准教授。長崎大学核兵器廃絶研究センター 准教授（兼務）。

専門は環境物理学。博士（環境科学、長崎大学、2012年）。被爆者問題、核兵器、原子力発電、安全保障などの課題に取り組んでいる。RECNA「核弾頭データ追跡チーム」及び「核分裂性物質データ追跡チーム」のメンバーの1人。『核兵器をめぐる5つの神話』（共訳、法律文化社）、『環境問題の数理科学入門』（共訳、丸善）。